

ずいそう

第14回 日本障害者オープン ゴルフ選手権「上肢障害の部」優勝



有 迫 隆 志

2009年10月26日(月)～27日(火)鹿児島県の知覧カントリークラブで開催された、日本障害者ゴルフ協会主催の第14回日本障害者オープンゴルフ選手権に参加し、見事優勝した!

選手権を主催する日本障害者ゴルフ協会は、「ゴルフを通じて障害者の生活の質を高め、より多くの障害者がゴルフを楽しむ。さらに一般の方にも障害者ゴルフに対する理解を深め、障害者と健常者が区別無くゴルフを楽しめる環境を創りあげる」ことを目的に、1991年に発足し、約600人の会員がいる。

1996年にスタートした同選手権は、上肢や下肢、片マヒ、重複、知的、車イスなど、障害の部位別に、2日間の36ホールスクラッチプレーで争われる。障害者ゴルフの最高峰として認知されるようになった近年は海外からの参加者も増え、「ジャパンオープン」とも呼ばれている。

この大会へは3年前から参加しており、これまでの成績は2位、2位、4位ということで上位にはつけないものの、優勝はできなかった。今年こそは!という思いで参加したが、天候は思いとは裏腹で、台風20号が鹿児島県に上陸し、大会初日は強い風と雨の中でのゴルフとなった。これまで経験したことのない天候の中でのゴルフだったため、どうマネジメントするか悩みながら我慢のゴルフを行った。結果は、初日「43 - 44 = 87」で2位の選手が「94」であったため、「7」打差で初日をトップで終えた。

大会2日目、この日も台風の影響で、雨はあがったものの、風は強く吹いていた。2日目の組み合わせは、前日の成績順で決まり、1位、2位、3位、4位が同組でスタートすることになった。当然、追いかけてくる選手のスコアが見えるなかでの戦いとなり、とても緊張感のあるゴルフとなった。

強い風のなか、前日と同じく我慢のゴルフをすれば、勝てるであろうと思っていた。しかし、2位の選手が早々にスコアを崩し、3位の選手と順位が入れ替っていた。2位に浮上した選手はさらに攻めのゴルフをしており、徐々に私との差も縮まってきた。

スタート時点では2位に浮上した選手と「9」打差でリードしていたが、フロント9を終了した時点で一気に「3」打差にまで縮まっていた。

バック9、これまで我慢のゴルフをしてきたが、2位の選手の追い上げもあり、少し攻めのゴルフに切り替えてスタートすることにした。

【攻めのゴルフ】、両者ともに出入りの激しいゴルフだった。

自身の結果は、2日目も「87 - 87 = 174」で2日間のトータルスコアは「87 - 87 = 174」であった。2位の選手は2日目「83」で、2日間のトータルスコアは「96 - 83 = 179」ということで、「5」打差で優勝することができた。

そんな私が障害を負ったのは20歳の時、父親の影響もあり、小さな頃から憧れだった大型バイクを購入し、よく他県ヘッティングしていた。半年が過ぎたある日、一般道で転倒し、左上肢機能が全廃(病名:腕神経叢(そう)麻痺)するという最悪な状態になってしまった。

しかし、そんな状態でもゴルフと出会ったのは、'02年に入社したコベルコ建機での社内ゴルフコンペだった。昔からスポーツ好きということもあり、とにかく何でもやってみよう!という気持ちで、'05年からゴルフを始めることになった。

始める前から諦めるのではなく、「まずはやってみよう!」これが私の信念だ。

ところが、初心者向けのハンディキャップもあったが、終わってみれば予想外の上位入賞だった。さらに、会社の先輩と一緒に自身2回目の本コースラウンドで「98」のスコアが出るなど、一気にゴルフへのめり込んでいった。

最近では月1回のペースでラウンドを行っており、ゴルフ関係者の縁もあって今は広島佐伯カントリークラブのメンバーになり、ハンデは「14」で、アベレージは「80」前後にまで成長した(ベストスコア「75」)。

私は縁があってゴルフという楽しみ、生きがいを見つめることができた。ゴルフに出会って物事の考え方や、人生の価値観まで変わった。

たとえ障害があろうとも、何か夢中になれるものに巡り合えば、必ず新しい自分と出会うことができる。そしてその先に広がる新しい可能性に挑戦できる楽しみを味わってもらいたい。これは健常者、障害者問わず、皆さんに伝えたい思いだ。

最後に、左腕を失ってからたくさんの人に出会い、色々な経験をすることができた。自らの失敗で失った左腕には申し訳ないが、左腕には本当に感謝している。

次回の日本障害者オープンゴルフ選手権には、一定の条件を満たした上級者が対象の「グランプリの部」へ出場し、上位を狙いたい。